

PRESS RELEASE

彫刻の森美術館 開館 50 周年記念事業

2019 年 7 月 27 日 (土) ピカソ館リニューアルオープン



彫刻の森美術館 (神奈川県箱根町、館長: 森英恵) は、開館 50 周年記念事業としてピカソ館の全面リニューアルを行い、7 月 27 日 (土) より一般公開します。

ピカソ館は、20 世紀を代表するスペインの芸術家パブロ・ピカソの作品を専門に紹介するために、1984 年に開館しました。以来、陶芸を中心とした 319 点のピカソ・コレクションを順次公開しています。

今回のリニューアルでは内装を一新し、観賞しやすい展示環境を整えました。また、リニューアル後のピカソ館では、テーマ展示「ピカソの挑戦～かたちの変貌～」を開催。絵画、陶芸、彫刻など様々な素材や手法で“形”に挑んだ創作活動を、ピカソが残した言葉とあわせて紹介します。

新しくなった展示室で、ピカソ・コレクションの数々をご堪能ください。

※ピカソの言葉 / 『ピカソ一生と創造の冒険者』 1973 年、モンダドーリ社

リニューアルのポイント

1984年の開館から35年を経て、初めてのリニューアル

内装と設備を一新。内装は床、壁、天井を全て変え、自然豊かな箱根にあうようにナチュラルで明るいイメージを出しました。また、空調も新設し、風除室を設けて気密性を高めました。



旧：ピカソ館内観



新：ピカソ館内観

高透過ガラスの使用で、より間近に鑑賞

作品保護ケースには高透過ガラスを使用し、ガラスの存在を感じさせないよう配慮しました。照明は紫外線や熱を出さない最新型のLED照明を採用し、作品への影響を最小限にとどめています。



よりピカソを身近に感じられる展示空間

展示作品は技法毎に3つに分類しました。

第1室は大型作品や油彩画、ジュマイユ専用エリア、ピカソの紹介映像、記録写真。

第2室にセラミック。第3室は絵画の小品を年代順にし、金銀オブジェを展示しています。

ピカソ作品の多様性と変容性、万能な芸術家であったピカソの人物像を残された言葉とともに紹介します。



テーマ展示

ピカソの挑戦～かたちの変貌～

展示期間：2019年7月27日(土)～2021年3月(予定)

■展示室1 <ピカソの挑戦>

ピカソの画風は様々に変化しました。主題となったのは、ピカソ自身をとりまく現実の世界です。油絵具で描いた絵をもとにして、ジェマイユ（スタンドグラス）やタピスリー（織物）などの素材に変えることで新しい魅力を作り出しました。

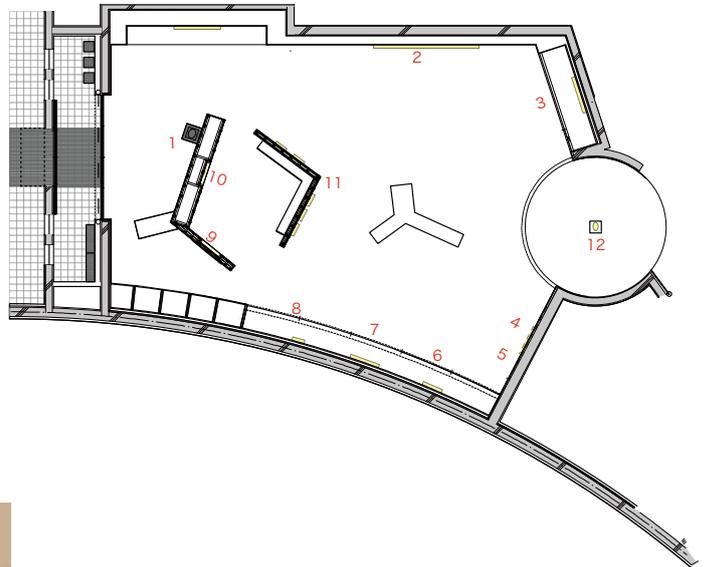
【展示作品数】 31点

- ・ピカソ作品 10点
- ・ピカソポートレート写真
(デイヴィッド・ダグラス・ダンカン撮影) 20点
- ・ピカソの肖像(パブロ・ガルガリョ) 1点



全展示作品数： 124点

- ・ピカソ作品 103点
- ・ピカソポートレート写真
(デイヴィッド・ダグラス・ダンカン撮影) 20点
- ・ピカソの肖像(パブロ・ガルガリョ) 1点



大切なことは見つけることであって、探すことではない。芸術家とは見つける人だ。芸術家にとっては、意図は何の価値もなく、スペインの諺(ことわざ)の「愛は論議ではなく事実で試される」のように、大事なのは行動である。 —ピカソ

	作家名	作品名	制作年	素材/技法	備考
1	パブロ・ガルガリョ	ピカソの肖像	1913年	ブロンズ	
2	パブロ・ピカソ	ミノトーロマシー	1982年(原版画1935年)	タピスリー	制作:イヴェット・コキール=フランス
3	パブロ・ピカソ	猫のいる静物	1962年10月23日-11月1日	油彩、キャンヴァス	
4	パブロ・ピカソ	男の顔	n.d.(原画1967年7月31日)	タピスリー	制作:ジャクリーヌ・ド・ラ・ボーム=デュルバック
5	パブロ・ピカソ	冠をかぶる女	1965年1月16日	油彩、キャンヴァス	
6	パブロ・ピカソ	画家とモデル	1963年3月5日-9月20日	油彩、キャンヴァス	
7	パブロ・ピカソ	縞のシャツを着た男	1956年9月20日	油彩、キャンヴァス	
8	パブロ・ピカソ	イタリアの女	1917年	水彩、紙	
9	パブロ・ピカソ	アルルカンのサルバド	n.d.(原画1923年)	ジェマイユ	制作:ロジェ・マレルブ・ナヴァール
10	パブロ・ピカソ	ピエロのポール	n.d.(原画1929年)	ジェマイユ	制作:ロジェ・マレルブ・ナヴァール
11	デイヴィッド・ダグラス・ダンカン		1957年頃	写真	20点
12	パブロ・ピカソ	アルルカン	1905年	ブロンズ	

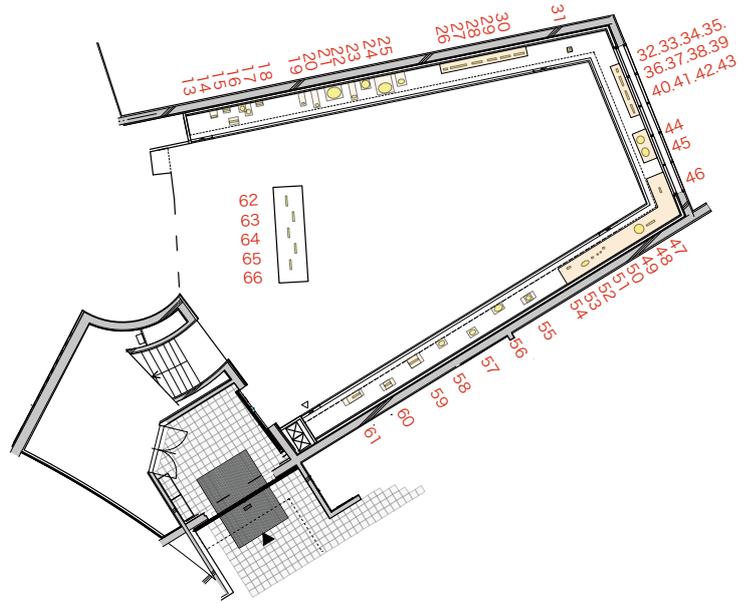
映像:「ピカソの挑戦～かたちの変貌～」4分30秒

■展示室2 くさて、またやってみよう！>

ピカソが陶芸に興味を持ったのは65歳を過ぎてからで、絵画と彫刻の要素を合わせ持ったその表現方法に熱中します。皿、花びん、壺などの作品には、ピカソのユーモアと子供に帰ったような感性が満ちています。

【展示作品数】 54点

私があの子供たちの年齢のときには、ラファエロと同じように素描できた。けれどもあの子供たちのように素描することを覚えるのに、私は一生かかった。 —ピカソ



	作品名	制作年	素材 / 技法
13	山羊の頭	1950年頃	セラミック
14	二羽の鳥	1953年4月10日	セラミック
15	魚	1947年10月7日	セラミック
16	鳥	1963年6月1日	セラミック
17	蛇	n.d.	セラミック
18	みみずく	1957年	舗装用レンガ
19	みみずく	1953年頃	セラミック
20	みみずく	1961年2月18日	セラミック
21	枝	1957年3月7日	セラミック
22	鳩	1953年頃	セラミック
23	鼻	1953年頃	セラミック
24	鳥	1954年頃	セラミック
25	みみずく	1954年頃	セラミック
26	闘牛	1957年6月24日	セラミック
27	牡牛	1958年1月19日	セラミック
28	コリーダ	1959年7月1日	セラミック
29	眼と太陽	1957年5月20日	セラミック
30	闘牛	1948年頃	セラミック
31	小さなケンタウロス	1953年頃	セラミック
32	牧神の顔	n.d.	セラミック
33	牧神の顔	n.d.	セラミック
34	牧神の顔	1956年頃	小型タイル
35	牧神の顔	1956年頃	小型タイル
36	牧神の顔	1948年3月10日	セラミック
37	牧神の顔	1947年10月17日	セラミック
38	牧神の顔	1948年3月9日	セラミック
39	牧神の顔	1947年10月17日	セラミック
40	顔一牧神の顔	1965年6月11日	セラミック
41	牧神の顔	1948年頃	セラミック
42	牧神の顔	1948年3月15日	セラミック
43	牧神の顔	1949年12月10日	セラミック
44	食卓の静物	1948年頃	セラミック
45	腸詰と卵	1952年	セラミック
46	小さな騎士	1951年2月20日	セラミック
47	二人の人物	1957年1月28日	舗装用レンガ
48	三人の女	1948年頃	セラミック
49	首飾りをつけたヴィーナス	1947年頃	セラミック
50	水浴者	1961年頃	セラミック

	作品名	制作年	素材 / 技法
51	女	1961年頃	セラミック
52	腕	1953年頃	セラミック
53	月の下の子供	1963年頃	陶板
54	胸	1955年3月31日	セラミック
55	青い背景の二つの顔	1954年頃	セラミック
56	三つの顔	1953年8月8日	セラミック
57	巻髪の横顔	1950年8月25日	セラミック
58	顔	n.d.	セラミック
59	二つの顔	n.d.	セラミック
60	ジャクリーヌの顔	1956年1月22日	セラミック
61	顔	1956年頃	陶板
62	顔	1956年頃	セラミック
63	顔	1949年1月30日	セラミック
64	顔	1963年6月14日	セラミック
65	顔	1963年頃	セラミック
66	四つの顔	1949年頃	セラミック



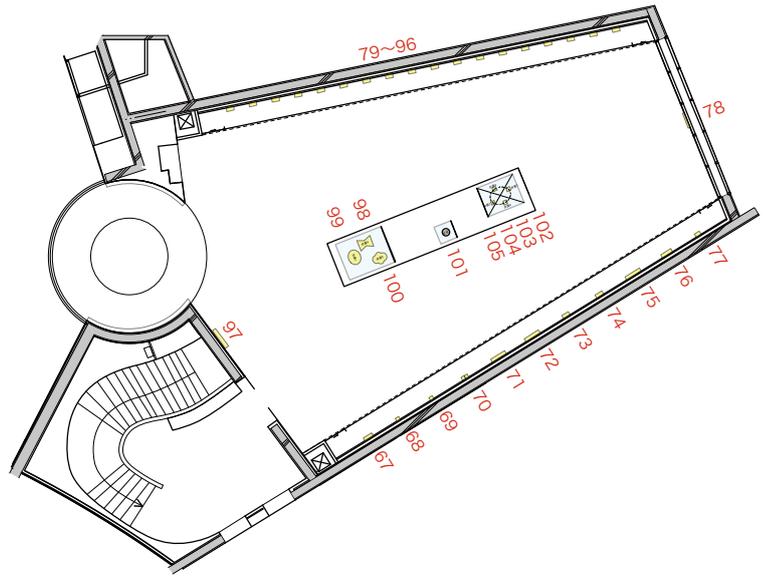
■展示室 3 <かたちの変貌>

ピカソは、陶器よりも丈夫なブロンズや金、銀などの金属を使ってイメージをかたちにしました。版画においては、1枚の原版に様々な修正を加えながらイメージを変形させていく過程そのものが重要となりました。

【展示作品数】 39点

絵は前もって考えつくされ、決定されるものではない。むしろ描かれていく間、たえず心の変動に従う。絵は作者の欲求がそこに表そうとしたよりもずっと多くのことを表現する。作者はしばしば自分で予期しなかった結果に驚かされる。線が対象を生まれさせ、色がフォルムを暗示し、フォルムが主題を決定する。

—ピカソ



	作品名	制作年	素材 / 技法
67	貧しき食事	1904年	エッチング
68	母性の喜び	1922年	エッチング
69	顔	1928年	リトグラフ
70	フランコの夢と嘘	1937年1月8日-6月7日	エッチング、アクアティント
71	浜辺の踊り	1946年8月26日	水彩、紙
72	子山羊と観客がいるバッカス祭	1959年11月27日	リノカット
73	座る男	1966年12月26日	鉛筆、紙
74	アルルカンと裸婦	1970年8月9日	パステル、紙
75	二人の人物	1972年6月26日、27日	水彩、チョーク、紙
76	男の顔	1972年6月27日	水彩、色鉛筆、紙
77	男の顔	1972年7月12日	パステル、紙
78	草上の昼食	1964年	陶板
79	花嫁衣装のジャクリーヌ (第1ステート)	1961年3月24日	シュガーリフト・アクアティント、スクレイパー
80	花嫁衣装のジャクリーヌ (第2ステート)	1961年	ドライポイント、又はスクレイパーの刃先
81	花嫁衣装のジャクリーヌ (第3ステート)	1961年	ドライポイント、又はスクレイパーの刃先
82	花嫁衣装のジャクリーヌ (第4ステート)	1961年	スクレイパーの刃先
83	花嫁衣装のジャクリーヌ (第5ステート)	1961年	スクレイパー、ドライポイント、ヴェロ
84	花嫁衣装のジャクリーヌ (第6ステート)	1961年	スクレイパー、ドライポイント、又はスクレイパーの刃先、ビュラン
85	花嫁衣装のジャクリーヌ (第7ステート)	1961年	スクレイパー、ドライポイント、又はスクレイパーの刃先
86	花嫁衣装のジャクリーヌ (第8ステート)	1961年	スクレイパー、ドライポイント又はスクレイパーの刃先
87	花嫁衣装のジャクリーヌ (第9ステート)	1961年	ドライポイント、スクレイパー、スクレイパーの刃先
88	花嫁衣装のジャクリーヌ (第10ステート)	1961年	スクレイパー、ドライポイント
89	花嫁衣装のジャクリーヌ (第11ステート)	1961年	ビュラン、ドライポイント
90	花嫁衣装のジャクリーヌ (第12ステート)	1961年	ドライポイント
91	花嫁衣装のジャクリーヌ (第13ステート)	1961年	スクレイパー
92	花嫁衣装のジャクリーヌ (第14ステート)	1961年	スクレイパー
93	花嫁衣装のジャクリーヌ (第15ステート)	1961年	スクレイパー、酸による直接腐食
94	花嫁衣装のジャクリーヌ (第16ステート)	1961年	スクレイパー、ドライポイント
95	花嫁衣装のジャクリーヌ (第17ステート)	1961年	金属磨き剤による研磨、スクレイパー
96	花嫁衣装のジャクリーヌ (第18ステート)	1961年	研磨、スクレイパー
97	子供	1956年頃	陶板
98	魚	1958年	銀
99	円	1958年	銀
100	クローバー	1958年	銀
101	腕を上げた女	1950年	ブロンズ
102	笛あそび	1967-68年	金
103	バッカント	1967-68年	金
104	シンバルあそび	1967-68年	金
105	ケンタウロス II	1968-69年	金

■略歴

パブロ・ピカソ Pablo Picasso

- 1881 10月25日、スペインのアンダルシア地方マラガに生まれる。父ホセ・ルイス・ブラスコはサン・テルモ工芸学校の教師。母はマリア・ピカソ・ロペス。
- 1891 (10歳) 父の転職によりガリシア地方のラ・コルーニャに移転。父から絵画指導を受ける。
- 1895 (14歳) 父がバルセロナの美術学校の素描教師となり一家で移転。ピカソは異例の若さで同校高等部の試験に合格する。バルセロナで最初のアトリエを借りる。
- 1897 (16歳) 《科学と慈愛》がマドリードの全国美術展で入賞。マドリードの王立サン・フェルナンド美術学院に入学するがすぐに退学。プラド美術館に通いつめ、巨匠の作品を研究。
- 1900 (19歳) 初めてパリに旅行。
- 1901 (20歳) 親友カサハマス自殺。マドリードで文学者ソレルと雑誌「アルテ・ホベン(若き芸術)」を発行。ヴォラール画廊でパリ初の個展開催。〈青の時代〉
- 1904 (23歳) パリ永住を決意。モンマルトルの長屋“洗濯船(バトー・ラヴォワール)”に定住。フェルナンド・オリヴィエと同棲。サーカスに通い芸人、アルルカンなどの世界を描く。〈バラ色の時代〉
- 1906 (25歳) イベリア彫刻に触れ強く影響を受ける。
- 1907 (26歳) 《アヴィニヨンの娘たち》完成。
- 1908 (27歳) ブラックらとキュビズム開始。セザンヌの影響を受けた〈セザンヌ的キュビズム〉
- 1909 (28歳) 〈分析的キュビズム〉に移行。
- 1912 (31歳) 初めてパピエ・コレを試みる。〈総合的キュビズム〉に移行。マルセル・アンペール(エヴァ)と知り合う。
- 1917 (36歳) ジャン・コクトー作の前衛バレエ「パレード」の美術を担当。ローマに旅行。
- 1918 (37歳) バレリーナのオルガ・コクローヴァと結婚。〈新古典主義〉をキュビズムと並行させて開始。
- 1921 (40歳) 長男ポール誕生。《アヴィニヨンの娘たち》に始まるキュビズムの探求が完結する。
- 1925 (44歳) パリの第1回シュルレアリスム展に参加。
- 1927 (46歳) 17歳のマリー＝テレーズ・ワルテルと出会う。
- 1928 (47歳) スペイン人彫刻家ゴンサレスの影響で彫刻制作再開。
- 1933 (52歳) シュルレアリスム雑誌「ミノトル」の表紙担当。ミノタウロスの連作を始める。
- 1935 (54歳) マヤ・ピカソ生まれる。
- 1936 (55歳) 女流写真家ドラ・マールと知り合う。
- 1937 (56歳) エッチング《フランコの夢と嘘》を制作、独裁者フランコを攻撃する。パリ万博スペイン共和国館のために《ゲルニカ》制作。
- 1943 (62歳) フランソワーズ・ジローと出会う。
- 1944 (63歳) パリ解放後フランス共産党に入党。
- 1946 (65歳) 陶芸の村ヴァロリスを訪れ、マドゥーラ窯を構えるジョルジュ・ラミエ夫妻を知る。
- 1947 (66歳) 本格的に陶芸を開始。
- 1949 (68歳) パリ平和会議用のポスターに、鳩を描いたリトグラフが採用される。
- 1951 (70歳) 東京で初めての個展を開催。
- 1953-57 (72-76歳) ローマ、パリ、ニューヨークなどで大回顧展。
- 1955 (74歳) 最初の妻オルガ死去。カンヌの“ラ・カリフォルニー”に住む。
- 1961 (80歳) ジャクリヌ・ロックと結婚。ムージャンの“ノートル・ダム・ド・ヴィ”に住む。
- 1963 (82歳) バルセロナのピカソ美術館開館。
- 1966 (85歳) パリで生誕85周年記念の大回顧展。
- 1968 (87歳) 版画〈347シリーズ〉を制作。
- 1970 (89歳) パリ国立近代美術館で生誕90周年記念の大回顧展。
- 1973 (91歳) 4月8日、ムージャンの“ノートル・ダム・ド・ヴィ”で、91歳の生涯をとじる。